
【短編】回廊

暇 隣人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【短編】回廊

【コード】

N0106R

【作者名】

暇 隣人

【あらすじ】

私と君の、

他愛もない話。

(前書き)

昔、「FC2小説」というサイトに投稿させていただいていた作品を少々改訂し、上げなおしました。

お気に召されれば幸いです。それではどうぞ。

鳥が囀る、緑の中。

私と君は走る。

振り返らず、ずっと走る。

なんのために？

何かのために。

そろそろ疲れただろう？

君は言う。

私は足を止めた。

君は私を追い越して、

小さく笑って、ゆっくりと歩く。

君が見ていないうちに、

私も優しく、微笑んだ。

ほら、見てみなよ。

君は言う。

そこにあるのは霧。

真っ白で、真っ黒な霧。

怖い。

私は君の腕をつかんだ。

大丈夫だよ。

君は言った。

君は私の頭を撫でた。

幸せかい？

君は聞いた。

私は、ただただ頷いた。

遙か向こうの、遠い空。

あそこにあるのは、

哀。

私は言う。

あれは私？

君は答える。

いや、違う。

あれは僕。

君は悲しそうな顔をした。

怖い目。

遠い眼。

私は泣きそうになった。

君はそれに気づいて、

あわてて私を慰めてくれた。

その手は、とても優しくかった。

もうすぐだね。

君は言う。

私は、首を横に振る。

どうして？

君は言う。

私は答える。

嫌だから。

君はまた、言う。

いつか、君は一人になるんだよ。

そういつて、あの遠い空を、

白黒の霧を見上げる。

行かなきゃいけないの？

私は言った。

君は、空を見たまま、言う。

うん。

君は私の手を握る。

あの霧は、待ってくれないよ。

私は泣いた。

君は、そんな私を、

じっと見つめるだけだった。

もう、終わり？

私は言う。

ううん、まだだよ。

きっと、ね。

君は答えた。

それじゃあ、がんばって。

君は手を振る。

どうするの？

私は君に聞く。

どうしようもないね。

君は、力なく笑う。

でも、君が無事ならそれでいい。

私も、笑う。

ほんと？

うん。

私と君は、泣いた。

霧が近づく。

じゃあね。

ばいばい。

私と君は、その道の中を、

また会える？

誰かが言った。

私は振り向き、

そこには、一面の霧。

うん。

誰かが、頷いた？

白黒の霧が、佇む。

鳥が囀る、緑の中。

私は走る。

振り返らず、ずっと走る。

なんのために？

誰かのために。

そろそろ疲れただろう？

私は言う。

私は足を止めた。

目の前には、霧。

一面の霧。

また会える。

私は笑う。

私は泣く。

君がいるなら、それでもいい。

私は霧に、

そのまま一人で、

ただ、

幸せかい？

誰かが言う。

私は頷いて、君の声を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0106r/>

【短編】回廊

2011年10月8日13時54分発行